

有休減らさず 子育て応援

子どもが熱を出したので休みます。資料作成など業務請負のラッシュ・インターナショナル(名古屋市)は、そんな子育てを理由にした休暇を有給休暇扱いにしない制度を導入している。中部の中小企業にも長時間労働削減など働き方改革の取り組みが広がる中、チームで情報共有して助け合うなど生産性を維持して女性の活躍を促す同社の工夫は、お手本になりそうだ。

(曾布川剛)

名古屋の企業 チームで支え合い

子育てしながら働く女性に取得できなくなる。ウェブサ
とって、子どもの急病などで イト運用やパンフレット制作
仕事を休む場合は有休を使わ などを手掛けるラッシュは、
ざるを得ないのが一般的。だ 三十五人の従業員がほぼ女
が、子育てで消化してしまう 性。二人の子どもを育ててい
と旅行など他の理由で有休が た倉田満美子社長(五〇)が二〇

取得できなくなる。ウェブサ
〇二年に会社を設立した当初
から子育てと仕事を両立でき
るように制度を始めた。

学校行事なども含め、子育
てを理由に休暇、早退、遅刻
しても規定の有休日数は減ら

ないため、有休の残りを気に
せずに休むことができる。納
期遅れなど業務に影響が出な
いように二、三人でチームを
組み、メールなどで常に情報
を共有。子育て中の社員と子
育てを終えた社員がチームを
組むなどバランスも考慮して
いる。

小学一年の長女を持つ女性
「心は以前の職場では子育て
で年に数回は有休を取ってい
たが、「このままじゃ評価さ
れない」と悩み、三年前にラ
ッシュに転職。休みを取りや
すくなり、「子どもがいるか
ら」といつて与えられた仕事に
甘えは許されませんが、仲間の
業務を把握していれば方が一
の時に補いあえる」と働きや
すさを実感する。

同社はデザインなど女性ら
しい提案が好評で自動車メー
カーなど大手企業にも取引を
拡大。倉田社長は「社員には
子育てしやすい環境を提供し
ているので、最大限の成果を
求めている。一人で仕事を抱
え込まないことが働き方改革
の「第一歩」と話す。



メールなどで情報を共有しながら助け合って仕事を進める
ラッシュ・インターナショナルの社員=名古屋市中区で